

台湾における外国人出稼ぎ労働者の抑うつに関連する社会経済的要因

平野(小原), 裕子
九州大学医学部保健学科看護学専攻

<https://doi.org/10.15017/322>

出版情報：九州大学医療技術短期大学部紀要. 29, pp.127-137, 2002-02. Kyushu University School of Health Sciences Fukuoka, Japan

バージョン：

権利関係：

台湾における外国人出稼ぎ労働者の 抑うつに関連する社会経済的要因

平野 (小原) 裕子

Study on Socio-economic Factors Affecting Depression of the Foreign Workers in Taiwan

Yuko Ohara-HIRANO

Summary

This study clarifies the socio-economic factors that influence the mental depression of foreign workers in Taiwan through quantitative analysis in order to extend a better support system.

The quantitative research was conducted with the cooperation of Migrant Workers' Concern Desk, Commission for Social Development, Chinese Catholic Bishops' Conference, to a total of 17 sites based on the churches in Taichung and Taipei area.

The number of the respondents in this study is 2,483, out of whom 2,302(97.7%) were Filipinos. 1,704 (70.3%) were women, the average age was 29.4 years old (SD6.3), and average length of stay in Taiwan was 21.3 months (SD23.9). For the reason they come to Taiwan, 754(48.0%) said that they come to Taiwan to experience life. By the type of job in Taiwan, Factory Workers of 1,695(70.0%) were top in number, followed by Care Takers of 358(14.8%) and Domestic Helpers of 240 (9.9%).

The logistic regression analysis indicated that Work strain ($\beta = .481$, $p < 0.001$) had the largest contribution to the CES-D scores, followed by the reason to come to Taiwan ($\beta = .244$, $p < 0.01$).

This study suggested that in order to prevent the Foreign Workers suffering from depression, it is inevitable to establish the multi-understanding between Taiwanese employers and foreign employees for further raising the treatment of the workers in their work place.

key words: foreign worker, depression, Taiwan, life strain

I はじめに

1. 台湾における外国人出稼ぎ労働者に関する先行研究

昨今のグローバル化は、国境を越えた大規模な労働力移動を促した。国際的な労働力移動は、発展途上国から先進工業国に向かう傾向があるとされ¹⁾、その背景としては、労働力送だし国側における押し出し要因—人口過剰・高い

失業率と不完全雇用率、貧困など—及び、労働力を受け入れる国における引っぱり要因—人口増加率の減退と高齢化に伴う若年労働力不足—が指摘されている²⁾。このような社会経済的状況を背景に国境を越える労働者には、様々な国内事情で母国では就労せず、海外に働きに出るタイプの労働者（以下「外国人出稼ぎ労働者」）が多いことが考えられる。

台湾は、新興工業国として、国内労働力の減少化を補う意味で、1990年代初頭から正規労働者として外国人出稼ぎ労働者を導入し始めた³⁾。台湾においては、外国人出稼ぎ労働者は管理の対象としてとらえられており、経営学や企業管理学の分野における先行研究や著作は比較的多い³⁻⁵⁾。また、外国人出稼ぎ労働者を雇用することに伴う、地域社会における社会的変化に関する研究も最近では増えてきている⁶⁻⁸⁾。

一方、外国人出稼ぎ労働者を対象とした研究の内容としては、台湾での生活適応に関する調査⁹⁻¹³⁾などがあり、彼らの過酷な労働条件や新しい生活環境、地域社会への適応困難等が報告されている。外国人出稼ぎ労働者を対象とした保健医療分野においては、雇用者の外国人出稼ぎ労働者に対する健康管理に関する総説¹⁴⁻¹⁵⁾のほかは、労働災害に関する研究¹⁶⁾など限られたテーマしか取り上げられず、過酷な労働条件や地域社会への適応困難といったストレスフルな状況（以下「生活ストレス」）と、外国人出稼ぎ労働者の精神的健康との関連について明らかにした研究はこれまでに例を見ない。

2. 本研究の目的

そこで、本研究においては、台湾における外国人出稼ぎ労働者を対象とし、彼らの精神的健康に影響を与えうる出稼ぎ生活に由来する社会経済的要因について、予防的見地から包括的に把握・検討することを試みる。本研究で言及する精神的健康状態とは、自記式抑うつ尺度（CES-D）¹⁷⁾を用いて測定することが可能な、主観的抑うつの状態と定義する。分析枠組としては、ストレスプロセスモデル¹⁸⁻¹⁹⁾を用い、主観的抑うつの状態をマーカーとして、どのような要因がどのように抑うつに関連しているかを明らかにする。

本研究の目的は以下のようである。

- 1) 台湾における外国人出稼ぎ労働者の属性、支援環境及び生活ストレスの内容について明らかにすること
- 2) 台湾における外国人出稼ぎ労働者の生活ストレスを類型化すること

- 3) 台湾における外国人出稼ぎ労働者の属性、支援環境及び生活ストレスと抑うつとの関連性について明らかにすること

II 対象と方法

本研究の対象は、台湾において、労働目的で滞在している外国人出稼ぎ労働者である。サンプリングは、台湾司教区社会開発委員会移住労働者研究所(Migrant Workers' Concern Desk, Commission for Social Development, Chinese Catholic Bishops' Conference)の協力を得て行われ、台中及び台北教区において、外国人のためのミサを行っている全ての教会の全出席者を対象とした。なお、本研究では、有効回答数2,567名（回収率81.4%）のうち、労働目的のために台湾に滞在していると回答した2,483名を分析の対象としている。

調査項目は、属性に関する項目として、国籍、性別、年齢、学歴、中国語会話能力、台湾での滞在期間、結婚形態、母国における家族の経済状態及び台湾に働きに来た理由を尋ねた。また、台湾における労働・生活の現状に関する項目として、過去30日間での労働日数、基本給、超過勤務手当額、その他諸手当額、一月あたりの控除額、出身国及び台湾でのブローカーに支払った費用、労働災害保険及び医療保険加入の有無、及び家族への定期的送金の有無である。また、社会的支援態勢を把握するため、「寂しいときに慰めてくれる人が台湾にいる」かどうかを尋ねることで情緒的支援の有無を明らかにした。

統計的分析には、PC版統計パッケージSPSS10.0Jを使用し、主に単純集計、 χ^2 検定、T検定、一元配置分散分析、因子分析、ロジスティック回帰分析を行った。なお、因子分析の過程では、主因子法で因子を抽出し、バリマックス回転を行った。そして固有値1.0以上という基準で因子を抽出し、さらに因子負荷量が0.40以上で、他の因子との負荷量の絶対値との差が0.10以上の項目を当該因子に属する項目と判断した。また、項目間の内部整合性を調べるため、Cronbachの α 係数を算出した。また、ロジスティック回帰分析では、抑うつに関連する要因の強さを比較する意

Table 1. Socio-economic Characteristics of Respondents

Socio-economic Characteristics	No. of Respondents	(%)
SES		
Nationality		
Filipino	2,302	97.7
Non-Filipino	54	2.2
Gender		
male	720	29.7
female	1,704	70.3
Age (years)	mean(SD):29.4(±6.3)	
School background		
non-college graudate	1,157	48.7
college graduate	1,220	51.3
Chinese proficiency		
poor	541	22.2
fluently/fairly	1,894	77.8
Length of stay in Taiwan (months)	mean(SD):21.3(±23.9)	
Marriage status		
married	779	35.2
non-married	1,431	64.8
Economic condition of the family back home		
difficult/ difficult but able to survive	2,102	87.7
not difficult to survive	294	12.3
Reason to come to Taiwan		
To support my family (Very important/important)	2,101	96.1
To earn money for my future(Very important/important)	1,854	97.8
To experience life in Taiwan(Very important/important)	754	48.0
Working condition		
Type of work		
Factory Worker	1,695	70.0
Care Taker	358	14.8
Domestic Helper	240	9.9
others	130	5.4
days of work in last 30 days (days)	mean(SD):25.5(±5.8)	
Basic Salary (NT\$)	mean(SD):16,490(±8,063)	
Over Time (NT\$)	mean(SD):4,975(±3,993)	
Other Allowances (NT\$)	mean(SD):1,741(±3,651)	
Salary Deduction (NT\$)	mean(SD):5,976(±3,696)	
Broker's fee in home country (P)	mean(SD):53,741(±38,136)	
Broker's fee in Taiwan (NT\$)	mean(SD):62,054(±31,785)	
Have any occupational accident insurance		
Yes	1,533	72.8
No	574	27.2
Have any health insurance		
Yes	1,934	89.8
No	220	10.2
Remittance		
Send periodically to family		
Yes	1,958	83.0
No	400	17.0
Emotional Support		
Have emotional support in Taiwan		
Yes	1,990	94.3
No	121	5.7

味で、標準化済独立変数を投入した。

従属変数としては、CES-D (計20項目) を用い、合計点16点以上の者を抑うつ群 (以下「高得点群」)、15点以下の者を対象群 (以下「低得点群」) として、それぞれのグループにおける属性や生活ストレスとの関連を比較した。

Ⅲ 結果

1. 属性

1) 基本属性

本研究の対象者の基本属性はTable 1のようであった。まず、国籍別にはフィリピン人2,302名 (97.7%) と圧倒的に多かった。性別では、男性720名 (29.7%)、女性1,704名 (70.3%) と女性が7割以上を占めていた。平均年齢は、29.4歳 (±6.3) で、最年少20歳、最年長63歳であった。年齢別には、20歳代1466名 (60.7%)、30歳代739名 (30.6%)、40歳以上210名 (8.7%) と、20歳代が6割以上を占めていた。平均滞在期間は、21.3ヶ月 (±23.9) で、最短1ヶ月、最長22年であった。

学歴は、大学卒1,220名 (51.3%)、大学中退以下1,157名 (48.7%) であり、大学卒業者の割合が半分以上を占めていた。中国語会話能力については、通訳なしでは生活できない程度 (poor) と回答した者は541名 (22.2%)、通訳なしでも生活できる程度 (fair-fluent) と回答した者は1,894名

(77.8%) で、8割近くの者が、日常生活で通訳なしでも生活していけると回答している。

結婚形態については、既婚者779名 (35.2%)、独身者1,431名 (64.8%) で、独身者の割合が6割以上を占めていた。母国における家族の経済状態については、「困難である」及び「困難であるが、生活していける」2,102名 (87.7%)、「困難ではない」294名 (12.3%) であった。

台湾に働きに来た理由 (複数回答) について、「非常に重要、重要、どちらかといえば重要」と回答した内容を分析したところ、回答の多い順から「母国の家族を経済的に支援するために来た」2,101名 (96.1%)、「自分の将来のためにお金を稼ぎに来た」1,854名 (97.8%)、「台湾での生活を経験するために来た」754名 (48.0%) の順で多かった。

2) 労働・生活の現状

現在についている仕事の内容については、工場労働者1,695名 (70.0%)、ケアテイカー358名 (14.8%)、家事労働者240名 (9.9%)、その他の職業130名 (5.4%) の順で多かった。また、過去30日間における労働日数を尋ねたところ、平均25.5日 (±5.8) であった。

基本給与の平均はNT\$16,490 (±8,063)、超過勤務手当の平均はNT\$4,975 (±3,993)、その他の

Fig. 1 Stressful Life and Work Events

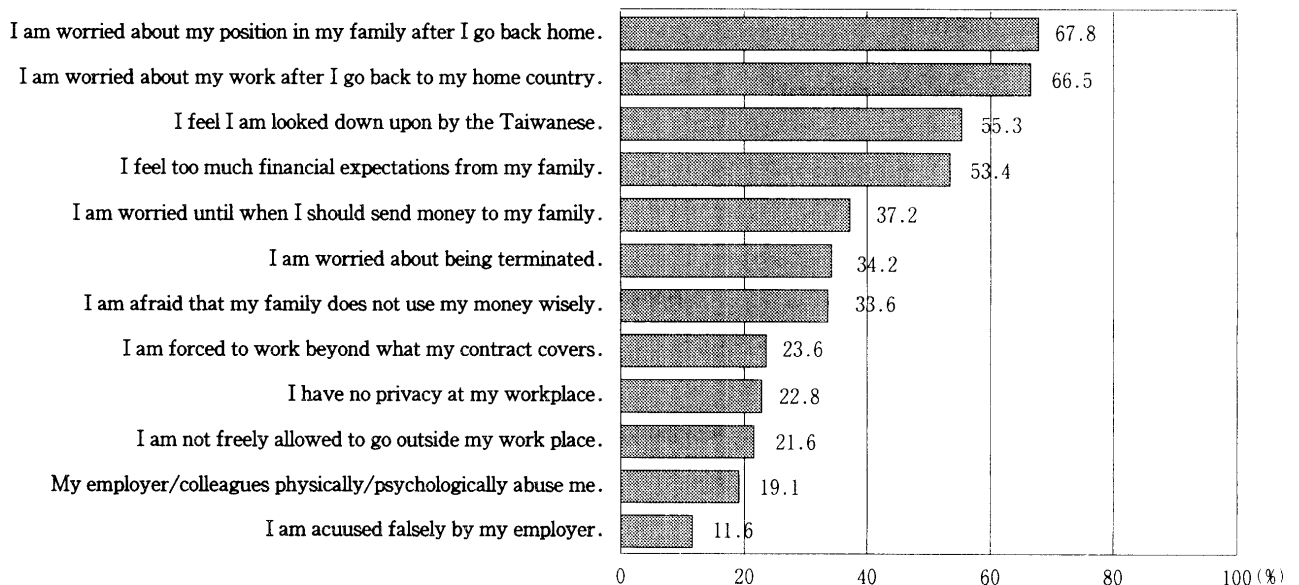
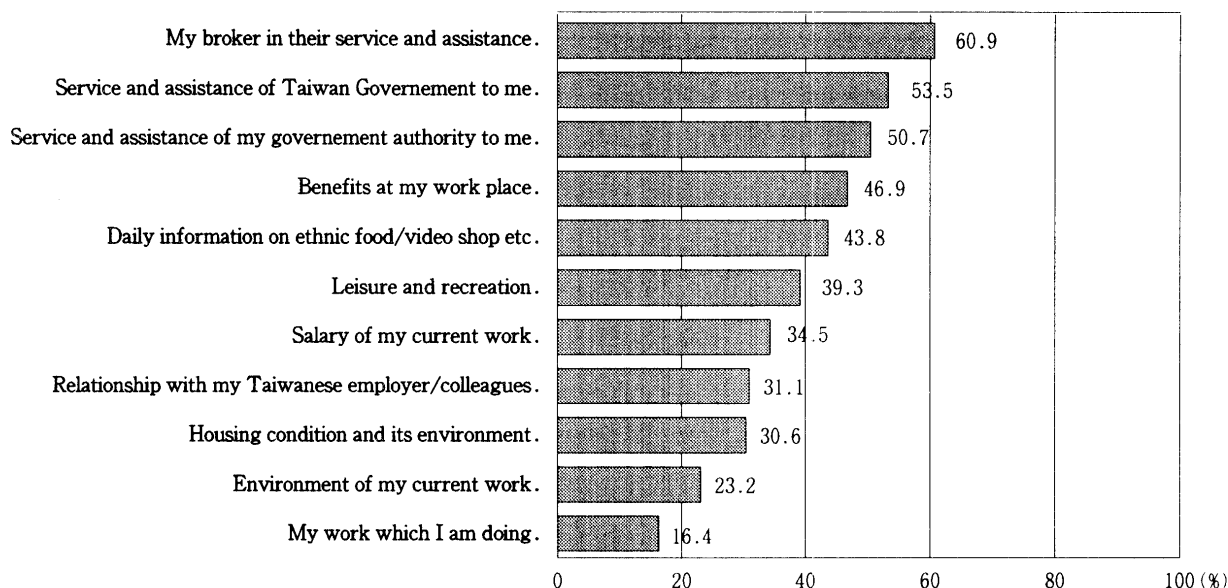


Fig. 2 Working and Living Dissatisfaction



諸手当の平均はNT\$1,741(±3,651), また, 給与から差し引かれる金額の平均値はNT\$5,976 (±3,696)であった。また, 台湾に働きにくる際にブローカーに支払った費用として, 母国において平均53,741ペソ (±38,136) が, また台湾においてNT\$62,054 (±31,785) が支払われている。

職場における福利厚生の実態を尋ねたところ, 労災保険に加入していると回答した者は1,533名 (72.8%), 健康保険に加入していると回答した者は1,934名 (89.8%)であった。

また, 定期的に母国に送金していると回答した者は, 1,958名 (83.0%)であった。

3) 社会的支援態勢

社会的支援態勢の有無について尋ねたところ, 情緒的支援の有無について, あると回答した者が1,990名 (94.3%)であった。

2. 生活ストレインの構造

現在の生活において認識する生活ストレインの内容 (複数回答) については, 多い順から「帰国後の家族での自分の地位について心配」1,335名 (67.8%), 「帰国後の母国での自分の仕事について心配」1,256名 (66.5%), 「ブローカーのサービスやアシスタントに関して不満」1,151名 (60.9%) 「台湾人に見下される」1,088名 (55.3%)

の順で多かった (Fig 1,2)。

本研究における対象者が認識する生活ストレインの構造を因子分析を用いて明らかにしたところ, 4因子が抽出された (Table 2)。

第一因子は, 台湾における労働及び生活における不満足に関するもので, これを「台湾における労働及び生活不満足」因子と命名した。第二因子は, 仕事上のストレスフルな状況に関するもので, 「仕事上のストレスフル状況」因子と命名した。第三因子は母国及び台湾の政府や, ブローカーのサービスやアシスタントに対する不満足をあらわしたもので, これを「サービスに関する不満足」因子と命名した。最後に第四因子は, 母国の家族に関する心配ごとや将来に関する心配事であり, 「母国や将来に関する心配事」因子と命名した。なお, 各因子に類型化される項目間の α 係数は, .73~.87であった。

3. 抑うつに関連する要因

本研究の対象者のうち, CES-D20項目の得点が16点以上である高得点群は, 862名 (62.8%)であった。

高得点群を, 社会的属性別に比較したところ, 次のような結果を得た。まず, 国籍別には, フィリピン人(63.2%)は, フィリピン人以外の者 (35.0%) よりも, 高得点群に占める割合が多

Table 2. Factor Analysis of Life Strains

	factor 1	factor 2	factor 3	factor 4	communality
I am agreed that my family does not use my money wisely.	-.079	.174	-.047	.575	.369
I am worried until when I should send money to my family.	-.028	.153	.006	.722	.545
I feel too much financial expectation from my family.	-.042	.134	.059	.695	.507
My position in my family after I go back home.	-.018	.094	-.053	.493	.256
My work after I go back to my home country.	-.055	.106	-.057	.436	.208
I feel I am looked down upon by the Taiwanese.	.145	.407	.181	.271	.293
My employer/colleagues physically /psychologically abuse me.	.107	.703	.031	.101	.517
I am not freely allowed to go outside my work place.	.025	.645	.012	.140	.436
I am accused falsely by my employer.	.051	.757	-.016	0.07	.582
I have no privacy at my workplace.	.055	.676	.012	.112	.473
I am forced to work beyond what my contract covers.	.110	.663	.042	.152	.477
I am worried about being terminated.	.102	.495	.069	.305	.353
Dissatisfied with my work which I am doing.	.679	.091	.030	-.094	.479
Dissatisfied with the environment of my current work.	.763	.080	.042	-.074	.595
Dissatisfied with salary of my current work.	.658	.055	.219	-.024	.484
Dissatisfied with benefits at my work place.	.640	.050	.297	-.055	.501
Dissatisfied with relationship with my Taiwanese colleagues.	.655	.130	.164	-.016	.473
Dissatisfied with daily information on ethnic food/video shops.	.612	.037	.240	-.077	.434
Dissatisfied with leisure and recreation.	.506	.087	.405	-.043	.430
Dissatisfied with housing condition and its environment.	.521	.133	.396	-.020	.447
Dissatisfied with service and assistance of my government authority to me.	.306	.023	.753	-.044	.663
Dissatisfied with service and assistance of Taiwan government to me.	.311	.031	.804	-.021	.745
Dissatisfied with my broker in their service and assistance.	.266	-.058	.667	-.037	.521
Eigenvalue	5.61	3.94	1.82	1.41	
Percentage of Variance	22.26	14.77	5.67	4.20	
Cumulative Percentage of Variance	22.26	37.03	42.70	46.90	

かった($p<0.05$)。母国における経済状況別には、「とても困難」「困難だが生活していける」と回答している者で(65.5%)、「困難でない」と回答した者(46.8%)よりも高かった($p<0.001$)。また、台湾に働きに来た理由として、「台湾での生活を体験するために来た」と回答した者(64.7%)で、そうでない者(59.0%)よりも高かった($p<0.05$)。(Table 3)

職種と抑うつについては有意な差が見られ($p<0.05$)、高得点群が占める割合が高い順に、「ケアテイカー」(66.5%)「工場労働者」(63.6%)「家事労働者」(58.5%)「その他の職業」(50.0%)の順であった。また、高得点群を低得点群と比較したところ、給与の平均値に有意な差が見られ($p<0.01$)、低得点群で平均NT\$17,991、高得点群で平均NT\$15,903であった。また、因子分析により類型化された第一因子から第四因子は、それぞれ抑うつと有意な差が見られ($p<0.01\sim p<0.001$)、いずれも高得点群で平均値が高かった (Table 4)。

なお、性別、年代別、大卒かどうか、通訳なしで日常生活が送れるかどうか、平均滞在年よりも長く滞在しているかどうか、及び結婚形態別に高得点群の占める割合を比較したが、有意な差は見られなかった。また、職場の福利厚生状況に関して、「労災保険に加入しているかどうか」別、及び「健康保険に加入しているかどうか」別に比較したが、有意な差は見られなかった。母国への送金状況に関しては、現在定期的に送金しているかどうか別にも比較したが、有意な差は見られなかった。

また社会的支援態勢に関し、情緒的支援の有無別に高得点群にある者の割合を比較したが、有意な差は見られなかった。

次に、抑うつに影響を与える要因の強さを比較するため、ロジスティック回帰分析を行った。投入変数は、T検定及び χ^2 検定においてCES-D得点と有意な関連の見られた項目及び、コントロール変数として性別、年齢、結婚形態、情緒的支援

Table 3. Characteristics of the respondents who marked more than 16 points

category	yes(%)	no(%)	p-value
SES			
Filipino nationalities	63.2	35.0	p<0.05
Male			n.s.
School background (college graduate)			n.s.
Chinese proficiency (fluently/fairly)			n.s.
Length of stay in Taiwan (more than average length of stay)			n.s.
Married			n.s.
Family's economic situation is difficult/ difficult but able to survive	65.5	46.8	p<0.001
REASON TO COME TO TAIWAN			
To support my family			n.s.
To earn money for my future			n.s.
To experience life in Taiwan	64.7	59.0	p<0.05
SOCIAL WELFARE			
Have any occupational accident insurance			n.s.
Have any health insurance			n.s.
REMITTANCE			
Send periodically to family			n.s.
SOCIAL SUPPORT			
Has emotional support in Taiwan			n.s.

Table 4. Difference in characteristics between groups marked less than 15 and more than 16

	less than 15	more than 16	p-value
SES			
age			n.s.
WORKING CONDITION			
days of work in last 30 days			n.s.
Basic Salary	NT\$15,903	NT\$17,991	p<0.01
Over Time			n.s.
Other Allowances			n.s.
Salary Deduction			n.s.
Broker's fee in home country			n.s.
Broker's fee in Taiwan			n.s.
LIFE STRAIN			
Factor 1 (Dissatisfaction on living and working condition)	14.61	17.61	p<0.001
Factor 2 (Work strain)	6.67	10.41	p<0.001
Factor 3 (Dissatisfaction on Services)	8.25	8.89	p<0.01
Factor 4 (Anxieties on family and future matters)	10.54	12.64	p<0.001

の有無の各項目である。ロジステック回帰分析の結果はTable 5の通りである。抑うつに最も大きな影響を及ぼしていたのは、「仕事上のストレスフル状況」因子であり ($\beta = .481, p < 0.001$)、続いて「台湾での生活を経験するために来た」 ($\beta = .244, p < 0.01$) という台湾に働きに来た理由の強さであった。

IV 考察

1. 外国人出稼ぎ労働者の精神不健康研究における本研究の意義

外国人出稼ぎ労働者の属性、社会的支援態勢及び生活ストレインと、抑うつとの関連に関する研究は世界的にも非常に少ない。台湾においては、そのような研究は今のところ見られないが、台湾よりも外国人出稼ぎ労働者に対する受け入れ期間

Table 5. Socio-economic indicators and depression

Variables	B	p value
Filipino ¹⁾	.113	n. s.
Male ²⁾	.024	n. s.
Age	-.041	n. s.
Married ³⁾	.157	n. s.
Family back home is difficult to survive ⁴⁾	.094	n. s.
Comes to Taiwan to experience life ⁵⁾	.244	p<0.01
Present job is a Care Taker	-.164	n. s.
Present job is a Domestic Helper	-.235	n. s.
Present job is a Factory Worker	-.245	n. s.
Reference		
Basic Salary	-.223	n. s.
Factor 1 (Dissatisfaction on living and working condition)	.103	n. s.
Factor 2 (Work strain)	.481	p<0.001
Factor 3 (Dissatisfaction on Services)	.093	n. s.
Factor 4 (Anxieties on family and future matters)	.147	n. s.
Has emotional support ⁶⁾	.186	n. s.
Constant	.559	p<0.001

1) Comparison is Non-Filipino.

2) Comparison is female.

3) Comparison is Non-Married.

4) Comparison is "family back home is not difficult to survive".

5) Comparison is "does not come to Taiwan to experience life".

6) Comparison is "does not have emotional support".

Independent variables are standardized.

Model chi-square=69.31, df=15, p<0.0001

が長いわが国においてすら、日系ブラジル人に対する研究²⁰⁾ やフィリピン人労働者を対象とした研究²¹⁻²²⁾ などのほか、九州在住の外国人住民を対象とした研究²³⁾ など数えるほどしかない。

この理由として、サンプリングに時間と人件費のかかる精神的健康に関する疫学的研究よりも、医療機関に来院する、精神的健康になんらかの異状をきたした外国人患者を対象としたケーススタディ²⁴⁾ が好まれることが考えられる。疫学調査においては、対象者へのアクセスやラポールをとることが困難なため、来院する患者を対象にした方が、研究の時間もかからないで済むからである。ケーススタディは、一人の患者のケースの背景にある心理的社会的及び経済的状況を明らかにすることにはたけている²⁴⁾。他方ケーススタディは、いろいろな限界を持つ。例えばサンプリングに関する問題である。研究対象が医療機関に来院する外国人患者に限られている場合、医療機関に来院することのできなかった者の健康に関する要因や背景との比較・考察を行うことは困難であった。

そもそも、医療機関に来院することができる者は、なんらかのつてを持っていた者であると考えられる。問題はそれらのつてを持たず、医療機関にかかることが困難である者であることは間違いない。

本研究は、医療機関に来院することができなかった者をも対象とすることで、より多方面からのサンプリングを行い、知見の一般化を試みた。これは、社会経済的要因と抑うつとの関連の仕方を、高得点群と低得点群との間で比較することを通して、抑うつの発生に対する予防策を講じることを試みたという意味で、今日的意義があると言えよう。

2. 精神不健康に関連する要因：出稼ぎ労働者としての特徴

国や文化を越えて移動し、他国に定住する移民における精神障害の発生を促進させると報告されてきた社会的因子については、性別、年齢、ホスト国における滞在期間などがあげられる²⁵⁻³⁰⁾。移民の経験する精神不健康に関しては、男性に比べて女性において、精神障害、特に抑うつを示すこ

とが多いという指摘が一般的になされている³¹⁻³²⁾が、その理由として、女性は男性よりも随伴的移住になることが多いためであるという解釈がなされて来た^{31,33)}。しかし本研究における対象者の場合、独身者の割合が多いことを見ても、女性の随伴的移住という特徴は比較的薄く、性別と抑うつとの間には有意な関連が見られなかったものと思われる。

また、年齢について言えば、移住によって、広義の精神障害に曝される危険が高いとされる思春期世代と高齢者³²⁾が、本研究では対象からはずれていたことから、年齢別の違いが出なかったのではないかと思われる。

次に、ホスト国での滞在期間と抑うつとの関連について言えば、わが国への中国帰国者においては、移住後の滞在期間と精神障害の発生率やその特徴に違いがあることが指摘されている³⁴⁾。しかし、本研究では、滞在期間と抑うつとの関連は明らかにならなかった。その原因としては、対象者の国籍や文化、ホスト国の文化的社会的背景の違いもあると考えられるが、最も大きな理由としては、本研究の対象者が、海外移住といっても、限られた期間の台湾滞在であるケースが多く¹⁾、中国帰国者のように、ホスト国への永住を行う者とは適応のタイプが異なるからであると思われる。移民は、母国の文化や人間関係の喪失体験により、精神的健康に影響を受けやすいと指摘されているが³⁰⁾、予め期限の限られた海外出稼ぎでは、喪失体験は認識されにくいと考えられる。また、異文化における出稼ぎという、ストレスフルな現状に暴露されたとしても、それが比較的短い期間であったり、予め終わりが見えている場合においては、生活ストレインに対する対処がより効率的になされたり、ストレス反応そのものが軽減されるということが考えられる³⁵⁾。

外国人出稼ぎ労働者と、外国への移民との間で、適応のプロセスやそれがどのように抑うつに関連するのかというパターンの比較については、今後の新しい研究分野としての展開が期待される。

3. 外国人出稼ぎ労働者に対する精神保健的施策

本研究では、ロジステック回帰分析の結果、抑

うつを規定する要因として、社会経済的属性（性別、年齢、学歴、滞在期間、結婚形態など）やソーシャルサポートの有無に関する項目ではなく、職場における「仕事上のストレスフル状況」や、「台湾に働きに来た理由」といった項目がより大きく影響していることが明らかになった。

「台湾に働きに来た理由」が、差し迫った必要性のある労働目的であるというよりは、単に台湾での生活を経験するのが目的だとすれば、労働自体がストレッサーとなりうる。また「仕事上のストレスフル状況」は、毎日の労働生活において経験する生活ストレインそのものといえる。台湾における、長時間労働や契約外労働など、苛酷な労働条件が外国人出稼ぎ労働者のストレス認知にかかわることは、フィリピン家事労働者に対する研究でも指摘されている¹⁴⁾。これらの項目が、基本給や職種等単独でCES-D得点に有意に関連する項目をコントロールしてもなお、抑うつを有意に規定していたことから、外国人出稼ぎ労働者の抑うつを左右する要因が明らかにされた。このことは、逆に、外国人出稼ぎ労働者の抑うつの発生予防のための施策における要点を浮かび上がらせたと言える。

現在、台湾行政院劳工委員会は、外国人出稼ぎ労働者たちが、彼らが抱える生活上のストレスに迅速に対処することができるように、様々な情報を提供している。例えば、外国人出稼ぎ労働者向けに複数の言語で出版し配布しているハンドブックにおいて、異文化適応マネジメントに関する項目を設けている³⁶⁾。外国人出稼ぎ労働者にとって、異文化を理解し、それに適応していくことは、精神的健康を維持するために必要不可欠なことである。しかし、これらのプログラムを推進させるのに、外国人出稼ぎ労働者を管理の対象と考え、いかに効率よく労働に従事させるかという雇用者側からの発想のみでは限界がある。本研究でも明らかにされたように、職場での人間関係や、相互の信頼によって成り立つ労働条件のよしあしが、外国人出稼ぎ労働者の精神的健康を左右しうるのである。従って、外国人出稼ぎ労働者の精神保健的施策のために、まず雇用者と外国人出稼ぎ労働者

相互の理解を確立し、外国人出稼ぎ労働者に対する待遇の改善を行うことから始めるのは、意義のあることであると思われる。

4. 研究の限界と今後の課題

本研究では、調査対象者を外国人のためのミサを行っている教会への出席者に限定せざるを得なかった。教会とは、ことに外国人出稼ぎ労働者にとって、日常生活上の情報を提供するなど、エスニック・ネットワークのコアとなるところである³⁷⁾。従って、適切な情報、支援を最も必要としているのは、教会に来ることができない者であることは想像に難くない。今後の研究の方針としては、教会に来ることができない者をも含めた調査を行い、現状改善のための指針を得ることであろうと思われる。

*本研究は、平成11年度文部省科学研究費補助金(基礎研究(A)(2))「国際移民労働者をめぐる国家・市民社会・エスニシティの比較研究：経済危機の中のアジア諸国における出稼ぎフィリピン人を素材として」(研究代表者：大阪外国語大学・津田守教授)による研究成果の一部である。

注 釈

(1) 台湾にあつては、一部ホワイトカラー労働者を除き、工場労働者や家事労働者、ケアテイカーなどの単純労働者は、3年を限度に台湾からの帰国が義務付けられている。したがって、長期期間の滞在は困難である。

参考文献

- 1) サスキア・サッセン. 森田桐郎, 他訳. 労働と資本の国際移動—世界都市と移民労働者. 東京: 岩波書店, 1992.
- 2) Carino, BV. Migrant Workers from the Philippines. Paganoni, A.. Philippine Labor Migration. Quezon City: Scalabrini Migration Center, 1992, 4-21.
- 3) 行政院研究發展考核委員会編. 外労管理問題之研究. 台北: 行政院研究發展考核委員会, 1999, 14.
- 4) 嚴寶明. 外籍勞工在台工作態度之比較研究. 中国文化大学国際企業管理研究所博士論文, 1996.
- 5) 吳奎新. 聘雇外労法律EASY說—兼談就業服務法律實務. 台北: 永然文化, 1999.
- 6) 陳正良. 台湾地区外籍勞工之探討. 勞工研究季刊 1989; 96: 46-60.
- 7) 陳正良. 我国外籍勞工政策之檢討. 勞工研究季刊 1990; 100: 74-105.
- 8) 行政院研究發展考核委員会編. 我国外籍勞工可能引發的社会問題及其因應对策. 台北: 行政院研究發展考核委員会, 1992.
- 9) 黃世雄. 台湾地區外籍勞工生活適應問題及其相關因素之研究. 勞工研究季刊 1995; 118: 20-40.
- 10) 行政院勞工委員會勞工安全衛生研究所編. 外籍勞工生活適應性之調查. 台北: 行政院勞工委員會勞工安全衛生研究所, 1996.
- 11) Wang HC. Work Stress and Coping Amongst Filipino Female Domestic Helpers in Taiwan. Taipei: Taiwan Grassroots Women Workers' Centre, 1996.
- 12) 林宜宏. 外籍勞工工作適應之研究. 東海大学社会工作研究所博士論文, 1996.
- 13) Lin CJ. Filipina domestic Workers in Taiwan: Structural Constraints and Personal Resistance. Taipei: Taiwan Grassroots Women Workers' Centre, 1999.
- 14) 楊秀穗. 外籍勞工健康管理面面觀. 衛生報導 1993; 3(4): 18-20.
- 15) 楊秀穗. 認識外籍勞工健康管理. 衛生報導 1993; 3(9): 17-21.
- 16) 行政院勞工委員會勞工安全衛生研究所編. 外籍勞工職業災害及健康之追跡調查. 台北: 行政院勞工委員會勞工安全衛生研究所, 1994.
- 17) Radloff LS. The CES-D scale: A self-report depression scale for research in the general population. Applied Psychological Measurement 1977; 1: 385-401.
- 18) Lazarus RS, Folkman S. Stress, Appraisal, and Coping. New York: Springer, 1984.

- 19) 林峻一郎. 「ストレス」の肖像. 東京：中央公論社, 1993.
- 20) 大塚公一郎, 宮坂リンコン, 辻恵介, 他. 在日日系ブラジル人の精神医学的調査. 日本社会精神医学雑誌1998; 7(2): 165-172.
- 21) 平野（小原）裕子. 在日フィリピン人出稼ぎ労働者の精神不健康に関する研究. 九州大学医療技術短期大学部紀要 1999; 26: 11-26.
- 22) Hirano YO. Cognitive Life Strains and Family Relationships of Filipino Migrant Workers in Japan. *Asian and Pacific Migration Journal* 2000; 9(3): 365-374.
- 23) 平野（小原）裕子. 九州における在日外国人の精神的健康に関する研究. 九州大学医療技術短期大学部紀要 2001; 28: 129-137.
- 24) Marchall C, Rossman GB. *Designing Qualitative Research*. Thousand Oaks: SAGE, 1999; 1-20.
- 25) Inbar M. Immigration and learning-The vulnerable age. *Canadian Review of Sociology and Anthropology* 1977; 14(2): 218-234.
- 26) Roskies E. Immigration and mental health. *Canada's Mental Health* 1978; 26(2): 4-6.
- 27) Nguyen LT, Henkin AB. Vietnamese refugees in the United State: Adaptation and transitional status. *Journal of Ethnic Studies* 1982; 9(4): 101-116.
- 28) Beiser M. Influence of time, ethnicity, and attachment on depression in Southeast Asian refugees. *American Journal of Psychiatry* 1988; 145, 46-51.
- 29) Minas IH. Mental health in a cultural diverse society. Reid J, Trompf P. *The health of Immigrant Australia: A social perspective*. Sydney: Harcourt Brace Jovanovich Publishers, 1990; 250-287.
- 30) Minas IH, Lambert TJR, Kostov S, Boranga G. *Mental Health Services for NESB Immigrants: Transforming Policy into Practice*. Canberra: AGPS, 1996; 22-35.
- 31) Murphy HBM. Migration, culture and mental health. *Psychological Medicine* 1978; 7: 677-684.
- 32) 野田文隆. 多様化する多文化ストレス. 高畑直彦, 他編. *臨床精神医学講座23多文化間精神医学*. 東京：中山書店, 1998; 19-31.
- 33) 吉松和哉. 海外移住と精神障害. *精神医学大系*. 東京：中山書店, 1989; 193-212.
- 34) 江畑敬介, 曾文星, 箕口雅博. 移住と適応—中国帰国者の適応過程と援助体制に関する研究. 東京：日本評論社, 1996
- 35) 筒井末春. ストレス状態と心身医学的アプローチ—医療の現場から. 東京：診断と治療社, 1989; 35-37.
- 36) Council of Labor Affairs. *Handbook for Foreign Workers in the Republic of China*. Taipei: Council of Labor Affairs, 1998; 13-17.
- 37) Migrant Workers' Concern Desk. *Taking the High Way*. Taipei: Chinese Catholic Bishops' Conference, 1997.